

ものは、私は、そういう上の、国の外郭団体に頼るのでなくて、ちゃんとした機関を私はつくるべきだと。それには、県が今、電子申請システムをやってるでしょう、15億円もかけて。そんなお金あったら、その判断できる職員を養成して私はやってほしいというふうに申し上げたんです。

最初の点だけ答弁をいただいて、質問を終わります。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

議員ご指摘のように、そういった容疑者が勝手にやったような印象をとられてしまったというのは非常に私の方でも、そういった趣旨の発言はしてないんですが、そういうふうにとられてしまったのかなということ非常に残念だと思いますが、実際はそういった勝手に業務としてかかわったということはないというふうに断言できると思います。ただ、個人的にお手伝いしたかもしれないというところは、状況はちょっとわかりませんので、その部分は断言できないんですが、業務的にはそれはないというふうに思います。

蒲生光男議員の質問

○佐々木謙二議長 次に、順位2番、議席番号6番、蒲生光男議員。

(6番蒲生光男議員登壇)

○6番 蒲生光男議員 おはようございます。あいさつの定番に、朝は「おはよう」、昼は「こんにちは」、夕方や夜は「こんばんは」が普通に使われておりますが、朝だけ「おはようございます」と「ございます」がつく。昼の「こんにちは」や「こんばんは」にはない言葉で、「こんにちはございます」とは言いませんし、

「こんばんはございます」とも言いません。なぜ「おはよう」にだけ「ございます」がつくのか。これは永六輔がラジオ番組で言っていたことですが、聞いていた私もなぜなどと、余り取るに足らない疑問を感じているこのごろでございます。

5月19日に開催されました黒獅子まつりは盛大に、市民の期待を裏切ることなく開催されました。長井のイベントとして定着した黒獅子まつりのさらなる発展を模索して、もっとすばらしい、もっといい、喜ばれる黒獅子まつりにしていきたいものだと考えているところでございます。市内有数の神社の獅子舞だけではなく、最近では中道地区、清水町地区のほか、小規模の神社でも獅子舞は行われておりますので、飯豊、川西のむかで獅子のほか、白鷹の赤獅子の参加も入れて、見るイベントだけでなく、参加できる機会をつくるなどの工夫をしたらどうだろうかと思っております。

さて、通告しております長井市財政の展望について質問いたしますので、内谷市長ほか当局の皆様には明快な答弁をお願いしておきたいと思っております。

長井市財政を表現する場合、よく夕張に次ぐ財政苦境にあるような言われ方をされることがありますが、私は、夕張とは根本的に違うと思っております。夕張は財政赤字だけでも320億円、その他の借金を加えますと632億円もの巨額に及びます。長井市は320億円強ですので、市民一人頭でいえば、長井市は100万円ちょっと、夕張は500万円ということになります。長井市は、借金そのものは多くないわけですが、運転資金も枯渇状態で、日々の資金繰りで苦慮している状態だと思います。

最近、県内自治体の基金残高が公表されました。長井市は600万円しかない。近隣の飯豊町、白鷹町の基金残高数億円。しかし、平成16年度普通会計における住民1人当たりの地方債で比

較いたしますと、長井市は44万円、飯豊町が109万2,000円、白鷹町が73万6,000円であります。

今年度は特定目的基金を繰り入れしての財政運営と、最後の手段での予算編成となりました。財政危機脱出元年と位置づけてのスタートですが、まず、市長には、財政の展望をどのように見ているのか。平成19年度も半分もう過ぎました。そろそろ次年度のことについて考えなければならない時期だと思います。財政展望についてお答え願いたいと思います。

また、財政課長からは、交付税など具体的な項目での見通しについて説明をしていただきたいと思います。わかる範囲ということになるわけですが、基金繰り入れについても必ずしも肯定する意見だけではありませんでした。予定どおり繰り入れされるのか、それともそこまでせずに済む状況なのかの見通しについて説明をいただきたいと思います。

昨年11月に我々が説明を受けてきたことは、「1億6,700万円程度足りなくなる見込みだ」と説明をいただきました。いざ19年度予算編成の段になりますと、「5億円以上足りない」という話です。どこでどのような食い違いが発生したのか。18年度当初の財政展望で甘く見積もった結果か。それともある程度予測していたのか。給料カットをもとに戻せる状況ではなかったというのが現実ではないでしょうか。ある程度予測がついていたとすると、これは問題だと思います。市民はこれからは市民要望を聞いてもらえると思って、これまでの緊縮財政運営に協力してきました。なぜこのような事態に陥ったか、財政課長からお答えください。見込み誤りや過大に予測した経緯はなかったのかについて、財政課長の答弁を求めるものであります。

また、3市5町の平成17年度の普通会計の決算状況について、主要な項目について、財政課長から説明をお願いいたします。

新野副市長におかれましては、就任いただいて大変な財政運営を強いられている長井市でございますが、どのような感想と対策をお持ちかお聞きいたします。これまで農政、建設事務所、税務課、置賜総合支庁産業経済部長の後、平成16年4月から置賜総合支庁総務企画部長として、県政の重要なポジションで活躍されてこられた立場から、長井市の財政窮乏の救済手段として何があるのか、考えをお聞かせいただきたいと思います。

歳入不足を補う手段として、まず歳出を極力抑える努力は必要でございます。ここ何年間というものは職員の採用を抑えてきた経緯から、職員の管理職割合が置賜の中でも飛び抜けて高い割合を示しています。いびつな人事管理制度とはあながち言えなくても、適正なものとはなっておりません。市民文化会館長、図書館長など、一時民間人を起用しておりましたが、全体の人件費圧縮の一環として、正職員をここ何年か充ててきました。その見直す時期ではないかと思っております。思い切った対策を打たないと、財政危機を脱出するのは難しいと思っております。最終日、市長提案も予定されているようですが、3万1,000人のトップセールスマンとしての指導力を発揮していただきますようお願い申し上げます。

次に、財政危機の中で、教育や福祉行政に与える影響について伺います。

まず、福祉事務所長に伺いますが、3月、福祉ハイヤー予算を全額カットしたことに対し、私は、生活弱者に対する配慮が不足していると指摘しました。市長答弁は「福祉ハイヤー制度を廃止する考えはない。できれば6月補正を」と言われておりましたが、6月今定例会に間に合わなかった理由は何か、また、今後どのように実現するのか、当面の救済策を含め、福祉事務所長から説明を願います。

市長にお伺いをいたします。福祉・教育行政

+

に与える影響はどの程度か。いかに大変といえど、将来に対する先行投資は必要でございます。予算編成時における市長の基本的な認識を伺っておきたいと思っております。教育とは、まさにその意味合いがあるのではないかと思います。市長の見解をお願いいたします。

予算編成をするために、もはや教育、福祉は聖域ではないという財政の考えだと思っておりますが、その前に、市長がかねがね申されているように、国や県とのパイプで長井市の窮状を解決するために努力され、有効な解決策を見出させていただきますようお願い申し上げます。

長井市の福祉行政が手厚過ぎる、あるいは行き過ぎた内容になっているといったことは絶対私はないと思っております。生活弱者や交通弱者に対する最低限度の福祉行政の水準だと思っております。身体や知的障害など、いかに障害があっても、自分にできることはいろいろあります。自分でできることは自分でやる、これは基本です。しかし、例えば視覚に障害がある方にとって、福祉ハイヤーなどを含めた必要な行政サービスは確保されるべきであります。こうしたところに細かい目配りをするところこそ必要なのではないでしょうか。

教育分野についても同じことが言えるはずで、自分の子供を大学まで出して、地元で就職先がなく県外に就職した場合、家に残らないからこれがむだだなんていうことにはなりません。教育はまさに潜在能力を高めるものであり、方法やコストのかけ方は検討の余地はあると思っておりますが、基本的には先行投資だと思っております。

次に、市民との協働のまちづくり推進が最も必要について伺います。

5月27日、北向地区で、地区に隣接する平山堺町線、中街道線の2路線の道路清掃を行いました。縁石の車道側と歩道に堆積した土や泥、ほこりなどに草が生え、時にはヨモギやヨシやカヤなどが縁石の下にはびこり、縁石を持ち上

げてしまいます。当日は、地区民が2時間をかけ、約2キロに及ぶ道路歩道の堆積した土や草の除去を行いました。縁石部分は車道の面よりもやや勾配がついており低い位置にあります。そのために堆積しやすい構造になっております。見た目よりはるかに堆積した土の量が多いのがわかりました。軽トラックやトラクターのバケットで除去した堆積物を移すのですが、その多さに驚くばかりでした。

昔は、日曜日は道路清掃とか神社の境内の掃除をすることが子供の仕事でした。また、夕方の火の用心も日課でした。子供も地区や家にとって必要な役割のある存在でした。いつしか生活のレベルが上がり便利になるにつれ、子供の出番が少なくなってきたと思っております。役割が希薄になるにつれ、家族のつながりや地区内におけるつながりが少なくなっていると思っております。

最近、はしかで学校が閉鎖したり、百日ぜきがはやっているというニュースを耳にいたしますと、何か昔をほうふつさせるような感があります。協働のまちづくりは、昔のどこの家でも、どこの地区でも当たり前だった昔の生活様式の一部を再現するようなものだと思います。

環境美化や道路清掃などはだれにでも、いつでもできるものであります。長井市の財政苦境のこのときにこそ、行政に参画する機会をつくっていくべきだと思います。長井市内の道路をきれいにする運動を市民を挙げて取り組んだらいかがでしょうか。カヤとヨシでアスファルトが盛り上がっている市道はところどころで見かけます。長井市内の道路をきれいにする、そして来るアヤマのシーズンに長井市を訪れていただく観光客へのおもてなしをするなどはいかがでしょうか。日本一道路がきれいなまち長井を目指すなどはいかがでしょうか。市長の見解をお伺いいたします。

昔の「すぐやる課」は今日の財政難時代は死

語になりました。いかに市民に行政に参画していただくか。このことこそが最も大事だと思います。言葉だけでなく、一つのシステムをつくらなければならないと思います。市民が地区単位もしくはグループで自主的に環境美化清掃など自分たちにできることをしようとする場合、材料代や、場合によって道具などの貸与など、行政が側面支援するシステムをつくり、市民の参加を積極的に促していくべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

どこの自治体も財政難から、住民との協働のまちづくり推進がうたわれています。行財政改革は自治体間の知恵比べです。長井市も他市に先駆け、市民が参画する仕組みを検討するべきだと思います。ただ単にお金がない話だけでは、まるで希望が持てません。金がなければ知恵を出せという言葉は昔から言われたこと。レジ袋を削減する。つまり買い物に行くときレジ袋をもらわないようにする。これも難しい話ではありません。環境負荷の軽減も少し気をつけられだれにでもできる行政参加の一方法であります。

長井市政を預かる内谷市長にとりまして、思わぬ財政難を突きつけられ、大変でしょうが、危機脱出の方策を市民にきちんと説明できなければ展望はありません。時には思い切った決断も必要です。全国で見事にこれをなし遂げられている先進自治体も多数ございます。内谷市長とともに、ニセコ町、水俣市、大阪狭山市、太田市、志木市など、同じ会派時代に一緒に勉強してまいりました。今こそ英断をもって難局を切り開かれますようご期待申し上げ、壇上からの質問とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 蒲生議員の質問にお答え申し上げます。

議員からは、今後の財政危機脱出のための方策、あるいは協働のまちづくりについてのさま

ざまなご提言を賜りまして、大変ありがとうございます。また、黒獅子まつりを見るイベントだけじゃなく、参加できる機会をつくるなどの工夫をしたらどうだろうかというご提言は、私も全く同感でございます。このお祭りをさらに市内外に大きく評価されるようにするためには、そういった要素をつけ加えることが必要だというふうに考えておりますので、ぜひ今後ともさまざまな視点からご指導いただければ大変ありがたいというふうに思います。

それでは、まず第1に、財政の展望をどのように見てるかというご質問でございますが、歳入におきましては、平成18年の7月に国から示されました「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」、いわゆる「骨太の方針2006」などでございますが、これに掲げられております項目が2011年度までに確実にされることを前提といたしますと、今後ともこの5年間は地方交付税などは増加は期待できないというふうに考えざるを得ないと思います。また、市税の収入につきましても、現時点では地価の下落傾向に歯どめがかからず、固定資産税の課税総額が年々減少していることなどから、大幅な税収の伸びを期待することはまず困難な状況であるというふうに思います。一方で、歳出につきましては、定員適正化計画あるいは公債費負担適正化計画によりまして、人件費、そして公債費は減少するものと推定されます。しかし、特別会計に対する繰出金、議員ご指摘のように、それから少子高齢化対策関係費などの増嵩が今後とも続くものというふうに考えられます。

また、平成17年11月の「長井市財政の中期展望」に示されております平成20年度の財源不足額は4億6,552万1,000円でございます。これはこのたびの6月1日号の市報の方にも掲載させていただきましたけれども、現在、自立経営対策室を中心に、この不足額の解消に向けた取り組みを進めているところでございます。できるだ

け早い時期に具体的にお示しできるようにしたいと思います。問題は、やはり議員ご指摘のように、これがもう既に17年の11月に4億6,000万円近い金額が不足するということを議会の方にも示されておりました。そして先日、5月の31日ですが、今年度第1回目の長井市行財政の推進委員会がございました。これはご承知のとおり民間の方を委員としていろいろご指導いただく機関でございますが、その委員の皆様から、「なぜ17年の11月に示されたのに、今ごろこれが問題視されるのか」と、「それは、その当時の市長も責任あるけども、議会も責任あるんじゃないか」ということで、私もその当時議員でしたのでおわび申し上げましたけども、これがどうも18年度からはよくなるんだというふうな、これは、5年間大変厳しい行革を進めてきたわけでございますので、これはそういった心理的な部分でも、私も一議員としてその当時甘えがあったんじゃないかと。悔やまれますのは、18年度にしっかりとした締めの部分、対策の部分、1年間どうしても緩んでしまったのではないかと、その部分がいわゆる19年度以降に大きく響いてきてるのではないかとというふうに私は思っております。

そんなことから、今後、自立計画4年間残っておりますけども、議会からご承認いただいて、自立経営対策室を設置しまして、今、強力に押し進めておりますが、それでもなかなかそれぞれの主管課からは、思ったように事業を見直すこと、あるいは事務事業を再検討することがスムーズに出てこないという現状でございます。

次に、財政危機の中で予算編成時における教育や福祉行政についての認識はの質問でございますが、福祉について申し上げますと、福祉ハイヤーにつきましては、必要とする方々に十分に対応できる制度に見直すよう指示しておりますが、今定例会にお示しできなかったことはおわび申し上げなきゃいけないと思います。詳細

については福祉事務所長からご説明させていただきませんが、しかし、今年度の福祉政策につきましては、学童保育を従来の3年生から4年生まで拡大しました。残念ながら中央地区が場所の関係等もありまして、中央地区は4年生までできなかったんですが、なお、来年度以降はぜひ、できるだけ早く6年生まで希望者にはできるような体制をとってまいりたいというふうに検討していくつもりでございます。

さらには伊佐沢児童センターで従来は行っておりました障害児の集中保育を地元の保育施設でマン・ツー・マンで保育することに改めましたし、あるいはファミリーサポートセンター事業の新設など、子育ての支援策は大きく前進できたものと認識しております。

教育につきましては、北中のパソコン導入につきましては1年先送りさせていただきました。また、長井小学校の楽器の購入につきましても先送りさせていただきましたし、あと長井小学校の課題となっております耐震化の工事につきましては、年度計画では20年度に実施設計を組むということでございますが、それを何とか耐震化の基本診断を前倒ししまして、そして19年度中に実施設計を組めないかと検討したんですが、残念ながらこれ予定どおりせざるを得なかったと。また、小学校の副読本でございますが、これにつきましても今年度は見送らせていただきました。これは従来新入生に例えば生活の仕方というような副読本を新しくお渡ししてたわけでございますが、これをぜひこれからはもったいない運動ということで、小学生のうちからぜひ、自分が使った本をそのまま捨てるんじゃなくて、次の学年、新入生にもそれを使っただくような、そんな運動を広げるという意味から、割愛させていただきました。改訂の場合、あるいはもうぼろぼろになった場合は新しく購入していくというようなことでさせていただきましたが、一方で、長井の心をはぐくむ、そう

いった予算は、一度なくなったものでございますが、これを復活させて、やはり地域のいろんな体験あるいは伝統芸能などを体験できるような、そういった予算もつけておりますので、こちらにも、なかなか予算は厳しいんですけども、一方で重要な部分については決して削減することなく実施しているつもりでおります。

最後になりますが、日本一道路がきれいな長井を目指すなどはいかがですかというような質問でございますが、蒲生議員おっしゃるように、特に周辺ですと白鷹町の広野バイパス、287号、防雪さくじゃなくて、やはり木でそのかわりにやったり、あるいは飯豊町の方も一部そういう区間がございます。それは運転者として見ますと非常に緑を大切に、非常に雰囲気の良い道路だなというふうに思っています。

しかし、残念ながら長井の場合は、都市計画区域内の街路樹は整備しておりますが、そういったものがまだまだ不足していると、あるいは道路沿いの花というものも国道については非常に厳しい長井市の現状かなと思っておりますが、今年度、今月の24、25日とフラワー交流都市の総会が長井で開催されますが、それに中央女性の会や長井市の婦人会、あるいは商工会議所の女性部、さまざまなボランティア団体等ボランティアをしていただきまして、道路沿いの花壇を整備いただいたり、あるいは自主的に草むしりをして花を植栽とか、そういったことで大変きれいに花いっぱい運動を展開していただいております。ぜひこれは協働のまちづくりの一環として、花いっぱい運動、協働のまちづくりというものも特に力を入れてまいりたいと思っておりますので、ぜひ議員の方からもいろいろご指導賜れば大変ありがたいというふうに思います。以上でございます。

○佐々木謙二議長 新野 潔副市長。

○新野 潔副市長 蒲生議員からは、長井市の財政状況についての感想と対策についてのご質問

をいただきました。

私も就任いたしまして2カ月が経過いたしました。3月までおりました職場においては、置賜の市町村の行財政関係について、県本庁とつなぎ役のような仕事もいたしておりましたので、長井市の状況はある程度わかっておりましたが、2カ月たちまして、関係の職員との議論を重ねて中身がわかってまいりますと、その状況の厳しさを一層強く感じているところでございます。

しかしながら、今、地方財政の厳しい現状は、ここ長井市に限ったことではございませんで、小泉内閣の三位一体改革以降、私たちのように田園の小さい地方公共団体は、度合いの差こそございますけれども、押しなべて悪化していると、厳しい状況であるというふうに思っております。

この地方財政の悪化は、私から申し上げるまでもございませぬけれども、国の財政の悪化、借金が増大ということに加えまして、さらに地方分権の推進など、これまでの国と地方の関係が

+

変わってきていると、変化しているということが大きく影響していると思っております。したがって、私たちとしましては、さらなる行政改革による努力といえますか、一つは内部経費の縮減に努めまして、一層の市役所の効率化を推進するということはもちろんでございますが、痛みが伴うことであっても事務事業の見直しを行い、市の行政としての守備範囲というものを再点検していく必要があるというふうに考えておまして、そういうことで歳出の削減を図る一方、また、税収の確保を初めとする歳入の確保に努めまして、いち早く持続可能な行政体の構築を進めていかなければならないと思っております。

ただし、これを進めるに当たりましては、実情をきちんと市民の方々に説明いたしまして、それを正しく理解してもらおう中で、この改革が単なる財政の縮減という形ではなくて、蒲生議

員がご指摘ありましたように、市民の力が最大限に発揮される協働による地域づくりが活発に行われるような社会をつくるという形の中で改革を進めていく必要があるというふうに考えております。

また、具体的には何ができるかについては、今現在、自立経営対策策を中心を検討中ですが、私といたしましても一緒になって知恵を出していきたいというふうに考えておりますので、今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

○佐々木謙二議長 松本 弘財政課長。

○松本 弘財政課長 3点ほどご質問をいただきましたので、順次お答えをさせていただきます。

まず最初に、現時点での今後の財政見通しということでございますが、先ほどの高橋孝夫議員の質問に対する答弁とも重複するわけでございますが、市税の固定資産税につきましては、予算額を確保できる見通しになっているというふうに思っています。また、個人分につきましては、それから地方交付税につきましても、先ほども申し上げましたが、現在のところは不透明な状況でございます。ただ、18年度の決算剰余金につきましては1億5,800万円程度ということで、思っていたよりも多くなっているところでございますし、置賜広域病院組合の負担金の精算金につきましても18年度と同程度となっていることから、少しは明るい兆しが見えてきたなというふうに思っているところでございます。

ただ、今後の補正予算など、財政需要におきましてもまだ不透明なところがあるわけでございますから、19年度当初予算に計上している特定目的基金の繰りかえ使用を全く執行しないで済むかということになれば、この部分については現時点では難しい状況だというふうに思っているところです。

次に、なぜこのような事態に陥ったのか、見

込み誤りや過大に予測した経緯はなかったかということでございますが、まず最初に申し上げておきたいと思いますが、昨年11月時点で私の方から2億6,000万円程度の財源が不足する見込みだというふうなお話につきましては、あくまでも18年度の財源不足見込み額でございまして、19年度当初予算編成時の財源不足額5億円以上ということとは話は別でございますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

18年度の途中で財源が不足する見込みとなった理由につきましては、市税及び地方交付税の見込み違いが大きく影響しているところでございますが、見込み誤りがなかったかと言われれば、今申し上げましたように、見込み違いが大きく影響しているものでございますので、そういったことだというふうに認識をしております。また、市税、地方交付税の決算額が当初見込みに比較して小さくなったということでございまして、この部分でもご指摘いただきましたように、推計が過大であったということになるというふうに思っています。

このような事態に陥った経過ということになるわけですが、平成18年度の当初予算編成時におきまして、一般財源にゆとりがあれば、すべての一般財源の項目でかたく歳入を見積もることができたと思っておりますが、ぎりぎりの状況での編成でございましたので、結果としては甘い見積もりになってしまったというふうに反省をしているところでございます。

最後に、3市5町の平成17年度の普通会計決算の状況ということでございますが、事前に議長の許可をいただきまして、皆様のお手元に配付しております資料に基づきまして、簡単にご説明をさせていただきたいと思っております。

資料をごらんください。このペーパーにつきましては、平成17年度置賜3市5町の普通会計の決算の状況を一覧にまとめたものでございまして、表側には歳入の各項目別に決算額、それ

から前年度比較の伸び率を掲載させていただきました。

裏側をごらんいただきたいと思います。裏側につきましては、性質別の歳出の決算額と、同じく前年対比を記載させていただきました。中段合計より下のところでございますが、歳入差し引きの金額から実質収支、それから単年度収支、積立金、繰り上げ償還金、積立金取り崩し額などを差し引いた実質単年度収支、そのほか主な財政指標等について記載をさせていただいたところがございます。

この中で特に注目していただきたいのが、この裏側のところの積立金のところでございます。長井市におきましても平成17年度におきましては特別職、それから一般職含めて賃金をカットあるいは報酬をカットさせていただいておりますが、この効果額といたしまして5,000万円程度の財政調整基金の積み立てを行ったところがございます。そのほか、ここでは金額が1億円を超えておりますが、これは普通会計ベースでございますので、山形鉄道特別会計におきます山鉄運営助成事業の方の基金に積み立てた5,000万円程度がございまして、1億円を超える金額になっておりますが、一般会計ベースで申し上げれば、財政調整基金の5,000万円程度ということになっております。

今申し上げましたように、長井市におきましても17年度は1億700万円程度の金額で積み立てを行っておりますが、他市町を見ていただきますとおわかりのように、この財政調整基金に対する積み立てなどにつきましては、どの団体も同様にやっておられるようでございます。前から私が申し上げておりますが、他団体では長井市が17年度に行ったような特別な事情による積み立てということではなくて、決算剰余金の半分近い金額を恐らく積み立てたものだというふうに理解をしているところがございます。

それから、合計の下のところでございますが、

歳入歳出差し引き額、実際にはそこからさらに翌年度繰り越し財源を差し引いた実質収支というところになるわけでございますが、長井市の場合、ご案内のとおり、17年度におきましては2億1,499万4,000円という金額でございました。これを横にずっと見ていただくとおわかりかと思いますが、長井市の金額が他市町に比べてどのぐらいの程度になっているのかおわかりいただけるかと思っております。昨年の9月定例会ではこの決算剰余金についていろいろご議論をいただいたところでもございますが、実態としてはこのような状況になっているということをご認識いただきたいというふうに思います。以上でございます。

○佐々木謙二議長 平 英一福祉事務所長。

○平 英一福祉事務所長 福祉ハイヤーの件についてお答えさせていただきます。

今年度の障害者の移動支援につきましては、福祉ハイヤーの予算措置がなされない中で、4月から現在までに電話の問い合わせや窓口においていただいていた問い合わせが20件ほどございました。この方々には、これまでの制度を改正して改めていきたいというふうなことでご説明を申し上げ、もう少しお待ちいただくというふうなことでご理解をいただいていたところでございますが、その中で、お一方が通院などでどうしても支援が必要だという方がおられました。この方につきましては、福祉事務所で福祉ハイヤーとは別に高齢者の方々を対象としております移動支援事業であります高齢者等移送サービスというのがありまして、そちらの方に登録していただいて、「いきいき号」というものを利用していただいて移送を行っております。このいきいき号と申しますのは、登録制によって車いすとかストレッチャーの必要な方々、高齢者でございますが、この方々を無料で医療機関などに送迎する制度でありまして、市内のNPOの方に委託している事業でございます。

+

それで、今後どのように実現していくかということでございますけれども、現在、自立支援法の中で、そのメニューにあります移動支援事業というものの導入を検討しております。この事業は、その経費を国が2分の1、県が4分の1、市が4分の1を負担していくという補助事業でございます。この事業では、支援対象者の範囲を障害区分の認定を受けた方と、それから障害者手帳1級から4級までをお持ちの方、それと市民税非課税世帯の方々というふうに設定して、範囲につきましては、通院、通学、それから余暇活動、買い物などを対象としたいと思っております。また、この事業は委託していくという考えでございまして、委託先につきましては、社会福祉協議会、それからNPOのさわやかサービスさん、それからケアサービスさんから、また介護タクシーを持ってあります中央タクシーさんなどを想定しております。

この6月定例会に上程できなかつたということについてでございますけれども、この自立支援法の移動支援事業につきましての19年度の実施要綱がまだ国の方から示されておられません。事業導入に伴う必須事業というものがほかにございまして、これらについても細部の検討がなされない状況でございます。6月以降に国から県を通して要綱が示されるということでございますので、細部を検討の上、事業申請を行うとともに、9月の定例会に上程できるように努めてまいりたいと思っております。

それまでの対策といたしましては、先ほど申し上げましたように、いきいき号の方で何とか対処をしてみたいというふうに考えております。以上です。

○佐々木謙二議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 まず、福祉事務所に伺いますけれども、9月に提案しようとしている障害者自立支援法の地域生活支援事業というのは、どの時点でこれ、こういう事業があるとい

うことがおわかりになりましたか。3月時点でこういう情報は持ち得たでしょうか。それともその後ですか。その点いかがですか。

○佐々木謙二議長 平 英一福祉事務所長。

○平 英一福祉事務所長 お答えいたします。

去年の10月から自立支援法がきちんと施行になっておりますけれども、その時点ではこの移動支援事業というのがございました。しかし、先ほども私申し上げましたように、必須事業というのがございまして、5つの事業ほどあるんですけども、これらの事業が長井市で行っておりますのが日常生活用具給付事業などございまして、あとの二、三の事業について体制も整わないといひますか、係の体制も整わなくて、まだ実施できる状況にございませんでしたものですから、3月時点でももうこの事業については承知しておりましたが、取り組めないというふうに判断しておりました。以上でございます。

○佐々木謙二議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 市長の答弁はそうじゃなかつたんですね。ですから、そこら辺は、仮にそういう代替事業があるとすれば、やっぱり市長との間で十分コミュニケーションをとっていただいて答弁していただかないとまずいなと思うんですね。6月議会で何とかしていただけるのかなという、そういう期待を持った市民の皆さんは、9月まで待たせられる。しかもその間に、これからその事業に対して市がどういうふうに取り組んでいくかということについての説明も公にはない。電話の問い合わせがあつた方についてはそういう説明はしていらっしゃると思うんですが、それはやっぱりよくないと思いますから、これはきちんとかういう代替案を示していくんだというようなことを市報等に掲載する必要があるんじゃないかと思いますが、その点いかがですか。

○佐々木謙二議長 平 英一福祉事務所長。

○平 英一福祉事務所長 先ほども申し上げまし

たように、要綱が示され次第、すぐ着手していきたいと思えます。福祉ハイヤーについての市報等での周知につきましても、こういったもろもろの細部についてまでは十分掌握できておりませんものですから、できればその要綱の示された後で一応対策していきたいというふうに考えております。

○佐々木謙二議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 市長にお伺いいたします。

市長は公約されたんでしょうか。車座集会ですよね。これ物すごく期待している市民の方が大勢いらっしゃる。こういう実情を市報には掲載していただいたわけですが、やっぱり直接話をする。語りかける。あるいはまた説明の仕方も一方的な声だけじゃなくて別な工夫をする。いろんなありとあらゆる工夫をして説明責任を果たしていくというふうにたしか述べられたと思いますが、この車座集会に限らずですが、説明の仕方というのを今どの程度進んでいらっしゃるのか。

それと、年間、市政座談会というのが分館単位で、分館単位だけでなくグループでやるところももしかしたらあるのかもしれませんが、それは何カ所ぐらいあるか。その2件についてお答えいただきたいと思えます。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

車座集会につきましては、できるだけ早く行きたいというふうに思っておりますが、現時点ではやっぱり7月から何とかスタートしたいと。そして、車座集会というのは地区に入りまして、残念ながら今の時点ですと大字単位ぐらいを一つの単位として開かせていただきたいというふうに思っております。あと一方で、ランチミーティングみたいな形で、いろんな団体の方にお昼時間に一緒に食事をとりながら、弁当持ちをしながら雑談をしていただくようなことも7月から、これは募集制といいますか、呼びかけて、

ご希望あった団体としたいというふうに考えております。

議員ご指摘のように、市報は唯一の今の段階で市の情報を公開する、状況を市民にお伝えする唯一のツールになっておりますけども、これだけではもちろん今の長井市の現状、財政状況をお知らせするには十分ではありませんので、やはり直接対話して、そして一方的だけじゃなくて、市民の皆様からのいろんな疑問点、要望をお伺いしながら、来年度に向けた、どういったまちづくりをしていくかも考えなきゃいけないので、これを十分にやってまいりたいと思えます。

なお、今まで地区から要望がありました懇談会といいますか座談会につきましては、昨年の12月から大体30カ所から40カ所ぐらいだと思います。あとは各団体の方からいろんな総会時とかについて、30分あるいは1時間ちょっと講和をしろというようなことで、お話しさせていただいたところがやはり20から30ぐらいあるかと思えます。今後の予定についてはちょっと今把握しておりませんが、もしあれでしたらすぐ調べてお答えします。以上でございます。

○佐々木謙二議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 新聞紙上でいわゆる「ふるさと納税」という言葉があって、それが現実的になったけど長井市にどの程度恩恵があるのかなというのをすごく興味ありますよね。これは試算したりできる内容なんですか。恩恵あるんでしょうかね。ないとは言えないと思うんですが、どの程度見込めるものなんですか。それはいかがでしょうか。わかっている範囲でお願いします。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 議員ご指摘のとおり、これはついこの間も全国市長会がありまして、その中でも要望を我々もしていこうというふうに言ったんですが、まずはふるさと納税、名称は変わる

+

ということなんですけども、それによって、それが例えば長井市、ふるさと納税で2億円例えばいただいたと。その部分がじゃあ地方交付税、2億円ふえたからその部分は、ふるさと納税の部分は対象にしませんよというケースが今まで往々にしてあるんですね。それは絶対ないよと、別枠で用意するよとということにしました。

私としてももちろん期待しなきゃいけないということで、そのために、まず長井の出身者で全国で活躍されている方のいろんな会がございいます。例えば長井高校の東京鷹桜会というのがございいます。あるいは山形県人会、東京の県人会がございいます。残念ながら現時点での私の判断は、状況認識は、長井にある高校なんですけど、長井の方よりもどっちかという周辺の方の方でうまく引っ張って、長井との交流が少ないということがございいますので、ついこの間も板橋区の方のイベントに地場産センターの所長が行ってまいりましたが、地場産センターの所長の方に、その東京鷹桜会の事務局の方に出向いて、今後いろいろおつき合いですとさせていただくようなことをちょっと打ち合わせしてくるよとというふうに指示しておきましたけども、そんなことで、いろんなつてを通じて長井出身の方とつながりたいと。ですから、ぜひ議員もいろいろ首都圏あるいは関西とかつてがあるかと思っておりますので、ぜひご紹介いただければ大変ありがたいなと思っております。

○佐々木謙二議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 市長、最終日提案の予定でしょうが、これは組合との交渉の行方いかんということなんだろうと思っておりますけども、合意を目指して努力して、提案できそうな気配なのかどうか、そこら辺は、その進捗状況、いかがでしょうか。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

このたびの最終日提案というのは、議員ご指摘のとおり、職員の給与の削減の条例案でございいます。実は3月の定例会に何とか上程したいということで、1月、2月ぐらいから交渉を、3月議会前まで4回ほど重ねてまいりました。事務折衝はもっとやっておりますが。それ以降、どうも市の職員の財政状況に対する認識がかなりばらつきがあると、正しく認識してないんじゃないかというような私の判断もありまして、4月、5月で12回にわたりまして、職員との財政状況のことに関する意見交換会ということで、大体2時間程度、1時間半から2時間程度話し合いをしました。それを踏まえて組合に交渉を申し入れしたわけですが、組合側は早速アンケートをとりたいと、組合員に今回の給与の削減案についてどう思うかということで、そんなことでアンケートをとられたそうです。それを踏まえて、今、交渉を申し入れしてるところなんですけど、事務折衝は何回か行っておりますが、本交渉はまだ残念ながら実現していません。

ただし、やはりこれから市民の皆様には財政状況を理解していただきながら、受益者負担をもしかしたらご理解いただいたり、あるいは事務事業の見直しで今までやってたサービスを違う形にするということを決断しなきゃいけない状況ですから、今回は何としても削減案を上程させていただきたいなというふうに考えております。以上でございます。

○佐々木謙二議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 ご期待申し上げます。

けさ役所に来るとき、まちうちに散水車が出ておりました。散水車の前に大きいブラシでほこりを除去する車、昔はよくあの車走ってたんですね。もう予算がないからああいうのはやめたんかなと思ったら、やってみましたね、きょう。私が道路をきれいにする何とかかんとかなんて言ったからしたわけではないんでしょうけども、

あれってどのぐらい経費のかかるもんなんですか。ちょっと疑問だったもんですから。市長がわからなければ建設課長の方から答弁いただきたいと思います。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 市の方ではそういったものはありませんので、県道の、県の清掃車だと思えますが、詳しいことはちょっと今すぐわかる職員がおりませんが、建設課長から答弁させます。

○佐々木謙二議長 鈴木一則建設課長。

○鈴木一則建設課長 議員のご質問にお答えいたします。

私どもの方では散水車、清掃車につきましては持っておりませんので、県の県道を中心に事業といいますか、行っております。ただ、私どもの方でせんだって、あやめ公園通り線等の清掃を2路線ほど県の方にお願いしましたところ、行っていただけました。ただ、その経費については無料というか、そういうことでございますが、経費の部分については資料等々、県の方からお聞きするなりいたしまして、後ほどご提供いたしたいというふうに思います。

○佐々木謙二議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 この通りは県道なんですか。そうですか。済みませんでした。なぜそんなことをやってののかなと、私、不思議に思ったもんですから、済みません、知識不足で。後でまた資料があればお伺いしたいと思います。

これで質問を終わります。ありがとうございます。

○佐々木謙二議長 ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午後 0時00分 休憩

午後 1時00分 再開

○佐々木謙二議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

安部 隆議員の質問

○佐々木謙二議長 順位3番、議席番号8番、安部 隆議員。

(8番安部 隆議員登壇)

○8番 安部 隆議員 大変申しわけございませんが、訂正を冒頭をお願いしたいと思います。通告書の2番の贈収賄事件にかかわる契約方法についての(2)の入札審査会の役割となっていますが、正式には入札参加者審査委員会というふうをお願いをしたいというふうに思います。

6月定例会に一般質問に際しまして、通告しています2件について順次質問をいたしますので、市長並びに関係課長の簡潔明瞭な答弁をお願いいたします。

4月の市議会選挙におきまして、市民の皆様のご支援とご支持を賜り4期目の当選をいただいたことに、心より厚く御礼と感謝を申し上げます。並びに市民皆様の負託にこたえるべく、初心に帰り、市民生活と福祉の向上に、これまでの経験と知識をもとに、力を傾注してまいりたいと存じます。また、このたびの選挙に際しては、具体的な政策と信条を掲げさせていただいたところであります。そうした施策を実現できますよう努力をし、希望に満ちた将来展望を描きながら、協働のまちづくりに努めてまいりたいと思いますので、皆様の一層のご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

さて、これまで長井市は、財政の健全化に向けた改革に取り組み、行財政改革を推し進めてきましたが、依然として硬直した厳しい財政状